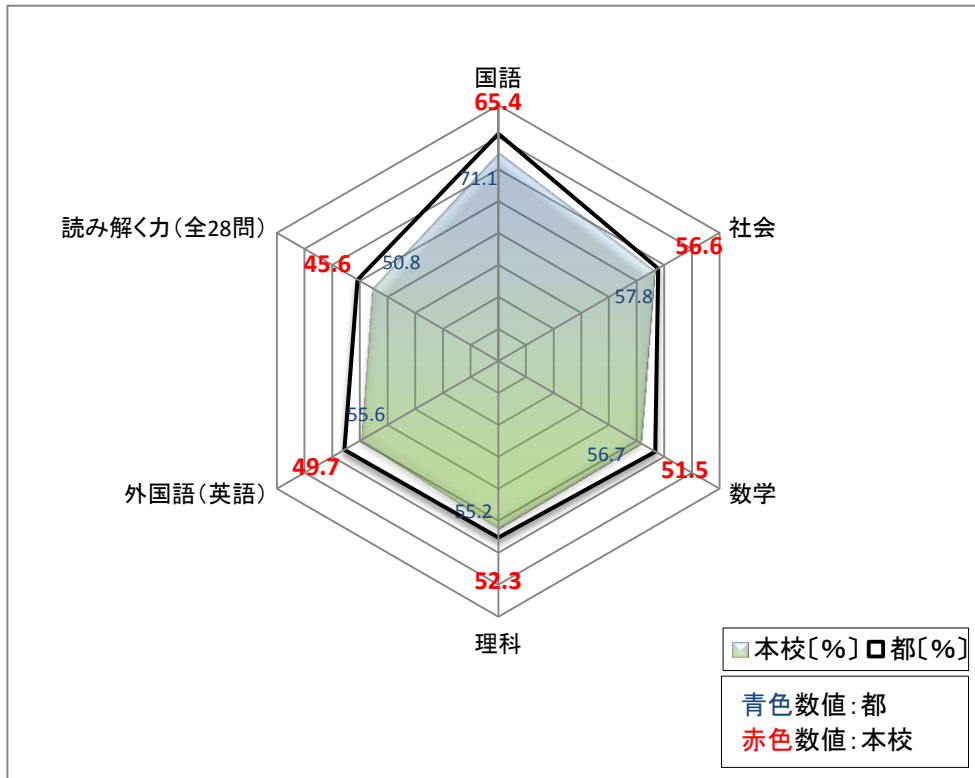


平成28年度児童・生徒の学力向上を図るための調査結果による「確かな学力向上推進プラン」策定のための課題分析表

松江第四中学校

《学力調査結果チャート》※本校と都の平均正答率の比較



《現状把握》

5教科を平均すると、都の平均値より3.9%下回っている。「関心・意欲・態度」では、社会は都平均値を上回っているが、他の4教科はやや下回っている。「思考・判断・表現」においては、社会が都平均値をやや上回っているが、他4教科は平均5.2%下回っている。技能では、国語が都平均値に対して-13.7%と差が大きく、改善が必要である。国語は「読む」においても都平均値を3.3%下回っている。「取り出す力」では、数学が-6.9%、「読み取る力」では、英語が-10.2%、「解決する力」では、理科が-8.8%と、差が大きい。

《授業改善のポイント》(推進プランは別紙)

読書科を中心に、朝の読書の時間を徹底させる。筆者の気持ちを読み取る力、文章を構築する力を身につけさせて、「読む力」、「書く力」をスキルアップさせていく。

数学では、数学的用語を理解させ、授業中に使用頻度を高めていく。

理科では、実験をより増やすと同時に、発表やレポート作成の時間を増やす。また、実技テストを個別に行い、意識を高めていく。

社会では継続してグループによる話し合い、活動を取り入れ、地図や資料を活用し、「技能」を高め、単元毎に小テストを行い、「知識・理解」を定着させていく。

《チャートの特徴》

27年度と比べて、5教科平均して都の平均値を下回っている。「読み解く力」において、特に、都の平均正答率との差が大きい。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭学習ノートの継続、及び家庭で学習する時間の確保を各ご家庭に呼びかけていく。

読書の意義や喜びを分かちあえる環境を、朝読書やビブリオバトルを通して継続して行う。